

つくり，いかす算数授業の創造

- 数学的な考えを培う，意味のある算数的活動とわかりやすく楽しい授業づくり
- 子どもたちが主体となり，数学的表現を通してかかわり合う授業づくり
- 子どもたちの認識の上に築かれた，教材研究が十分になされた授業作り
- 数学を活用する意識や実践力を育てる「生活・社会とつながる教材」の研究と実践
- 授業の実際や子どもの考え方の変容が明示された研究と実践
- 発達段階をふまえたカリキュラムの自主編制

I 研究テーマについて

小学校学習指導要領では、算数的な活動の充実や数学的思考力・表現力と算数を生活の中で活用しようとする態度の育成が示されている。数学的な表現（図・式・言葉・記号・操作）を通して子どもたちにコミュニケーションをさせていき、そこで出てきた表現を使ってできるだけ子どもの言葉でまとめさせていきたい。また、知識の活用が話題になっている。教科書の教材内での活用や生活内での活用を通して、算数で学習したことが日常生活でも活用できるということが子どもに実感できる授業の研究をしていきたい。以上のことから、この研究テーマを設定した。学習指導要領の改訂を控える今、コンテンツベース（内容中心）からコンピテンシーベース（資質能力中心）への授業改善の研究をすすめていきたい。

II 研究の内容

1 授業実践研究

(1) 単元名 「計算のやくそくを調べよう」（勝沼小学校 第4学年）

授業者 伊藤 健 教諭

(2) 成果と課題

- ◇ 導入部分でクッキーを使うことで児童の関心を引くとともに，2年次に学習した同じ数のまとまりをとらえて考えることができた。
- ◇ 児童は意欲的で多くの考えを出すことができていた。
- ◇ 多様な児童の考えを引き出し，一つの式にまとめる良さを知らることのできる展開だった。
- ◇ 問題を繰り返し読ませたり，答えにつまったときには友達が助けたりと，言葉のつながりが見える授業だった。
- ◆ 「まとまり」という言葉は児童から出てきていたが，うまくまとまりを作ることのできない児童がいた。「まとまり」だけでなく「同じ数の」ということをもっ

と意識させることで、混乱なく進められたのではないかと

- ◆ドットを移動させて考える方法に気づいた児童もいたが、時間がなく発表させることができなかった。後日発表することができた。
- ◆児童の考えを吸い上げながらの展開では、どの意見をどういう順番で発表していくのかが大切である。

2 小中授業交流

(1) 単元名 「一次関数」 (勝沼中学校 第2学年)

授業者 雨宮 光平

III 成果と課題

- 少人数ではあるが、部会員の先生方の「わかる授業づくり」「楽しい授業づくり」のための取り組みやアイデアを研究・交流でき、研究を深めることができた。
- 算数・数学のよさ、その授業で学んだことをどう使えるのか、良さは何なのかなどの視点から授業研究を進めることができた。
- プログラミング研修を行い、プログラミングの基礎について学ぶことができた。
- コンテンツベースからコンピテンシーベース(資質)の改善に少しずつ取り組めた。
- 授業案検討において授業者の先生が子どもの反応を予想したり、流れを具体物なども用いて具体的に提案してくださったことで、大切にしたいことなどを話し合い、研究を深めることができた。
- 中学校との交流研究会が勉強になった。学習内容の系統性について専門的な視点から意見をいただけることがよかった。
- 授業実践の交流をしたが、テーマである「つくりいかす算数授業」についてはまだ研究途中である。算数科で何を「いかす」のか何を「つくる」のかをはっきりとしておく必要があった。
- 新学習指導要領実施に伴ったコンテンツベースからコンピテンシーベースへの授業改善について研究を深めていく必要があるのか。テーマである「いかす」と関わるのではないかと。
- 計画に入れようとした教科書6社の比較や教材研究は面白いと思う。(R1年度が採択のためタイミングが悪かった。)教科書6社の検討だけでなく、現行のものと新しい教科書との比較をしてもよい。
- 教育協議会の限られた時間の中で研究していくため、継続して部会に所属していくことが大切。
- ・「新学習指導要領でねらいとしている事項を達成していくためにどのような授業をつくっていくのか」を基礎的学習をしていく中で研究していきたい。

(部長 向山 敢)